

特別寄稿

年頭にあたって



日本銀行前橋支店長 神山 一成

新年明けましておめでとうございます。旧年中は日本銀行前橋支店の業務に対し格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、群馬県経済は緩やかな回復基調を続けました。製造業の活動をみますと、北米での需要増加を背景とする自動車の好調もあって、鉱工業生産指数はリーマンショック後の未曾有の落ち込みを取り戻すだけでなく、既往ピークを更新するに至りました。非製造業の活動については、一昨年4月の消費税率引き上げ後、個人消費関連を中心にやや弱めの動きとなっていましたが、製造業の活発な活動の好影響が波及する中で、駆け込み需要の反動の影響も徐々に収束に向かい、緩やかな持ち直しに転じました。雇用・所得環境をみますと、労働需給は着実な改善を続け、雇用者所得も緩やかに増加しました。

本年の群馬県経済を展望しますと、企業・家計の両部門において所得から支出への前向きな循環メカニズムが持続するもとの、緩やかな回復基調を続けていく可能性が高いと考えられます。そうしたもとの、女性や高齢者の活用、設備投資による生産性向上など、企業による人手不足への対応も一段と広がっていくとみています。

地域経済の先行きを展望しますと、人口減少や高齢化といった構造的な要因が引き続き逆風として働くことは否めません。もっとも、こうした状況においても、地域の企業は、地域資源の活用や、域外・海外の需要の開拓、高齢化のもとで必要とされる製品やサービスの提供などを通じて成長できます。そうした企業の育成や支援は、地域に深く根差して活動している地域金融機関が強みを発揮できる分野です。

既に各金融機関は、ビジネスマッチングや事業再生支援など、地域に密着した金融サービスの提供に積極的に取り組んでいます。こうした地域の活力向上に向けた取り組みが今後更なる成果を上げていけば、金融機関自身の経営基盤の強化にも繋がっていきます。日本銀行前橋支店としましても、群馬県経済のより一層の発展に向けて、地域金融機関とともに努力をして参る所存です。

本年が群馬県経済の更なる飛躍の年となることを祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。